

発見！白井の仕事人 52

新鮮な野菜を子どもたちへ

山崎信男さん

今回は、名内でさまざまな野菜を生産している山崎信男さんを紹介します。

山崎さんは約1畝の畑で夫婦の二人三脚により年間約30種類の野菜を生産しています。中でも生産量が多いのが小松菜で、年間約8トンをビニールハウスで生産しています。主な販売先は市内の直売所ですが、平成18年から市内の小・中学校の給食に提供しています。



「旬の新鮮野菜をどうぞ」と山崎さん

収穫期には月5〜6回、給食センターや学校に新鮮な小松菜を直接納品しており、年々量も多くなっています。給食用に収穫する際には虫の混入や泥汚れがないように大変気を使うとのこと。それでも多くの子どもたちに最もおいしいタイミングで小松菜を食べてもらうため給食で必要とする量と時期を最優先にして生産しているそうです。

小松菜は同じビニールハウスで年間何度も生産するため、連作障害や病気の発生との戦いが

大変です。土壌の力を上げる緑肥作物を植えたり、太陽熱を利用した土壌消毒のほか、病気に強い品種を試すなど、さまざまな工夫をして安定的な生産に努めているそうです。



収穫期を迎えた小松菜

十数年前までは神奈川県の大和市や横浜市まで毎週、トラックに野菜や米を積んで行商も行っていたそうです。以前は山崎さんの住む名内地区では盛んであった行商も今では少なくなりました。

現在、山崎さんは市内の農業者団体からなる「白井市農業研究会」の会長を務めており、市の各種協議会などの委員にも就任し、会議の場で農業者の代表として意見を述べていただいています。

また、直売所のイベントなどの運営も担い、積極的に消費者との交流も図っています。

山崎さんが丹精込めて生産した新鮮野菜は今日も「やおばあちゃん」や「白井の湯」など直売所の店頭をにぎわしています。

問 農政課農政班 内線3254